



Dappe 6

2020

地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

「前略、鋸南より。」が完成しました。



こんにちは、地域おこし協力隊の室井です。

3月号でお伝えした移住の案内冊子「前略 鋸南より。」が完成しました。移住を考えている人に、鋸南の雰囲気を感じてもらえるような冊子にしました。制作にあたり、ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。この冊子は、東京有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」や役場、道の駅など、町内外に設置します。また、現在はコロナウイルスの関係で行われていませんが、今後の移住フェアなどでも配布したいと思っています。

今回の事態を受けて、地方への移住を考える人は増える気がします。神奈川県や東京の友人とオンラインで話していても、家から出られない事に対するストレスをすごく感じます。ふるさと回帰支援センターの相談員の話によると、センター閉鎖中もメールや電話での相談は受けており、20代の移住希望者もいるとのことでした。

現代の若者は「丁寧な暮らし」に憧れている人が多いと思います。休日には自分で豆を挽き、珈琲を淹れたり、家具をDIYしたり、そういった「一手間かける」という事が注目されています。自分でするまでには至って無い人でも、そういう動画を見ることが日課になっている人も多いと思います。先日、知人の田植えを手伝いました。田んぼに入ったのは小学生以来で、泥やザリガニを触り、自然と触れ合うとはこういうことだなあと、懐かしく思いました。自然を五感で感じられることは、自分からすると、地方だからこそできる丁寧なことです。その魅力を伝え、一緒にやりたい人を巻き込んでいくことが、今自分が一番やりたいことです。

今回、移住の導入部分である冊子を作ったので、次は現地での受け皿になれるようなモノや仕組みを作っていきたいと思っています。

Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)
〒299-1902
千葉県安房郡鋸南町保田66-1
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼

前略、鋸南より。

YouTube チャンネル



コロナと 獣害対策

こんにちは！ 有害鳥獣
対策担当の黒澤です。

さて、世界を巻き込んだ
コロナウイルスによる獣害
対策の現場への影響につい
て感じたことを書きます。
日常生活を維持するため
の負担が、獣害対策の意欲
を削いだり、対策事業も、
災害や経済対策が優先され
れば相対的に獣害対策への
予算が削られるかもしれま
せん。

例年行われる4〜5月の
一斉駆除（実施隊の銃猟に
よる捕獲活動）もいわゆる
3密を避けるために中止さ
れています。

箱ワナやくくりわなでの
捕獲は行われていますが、
わなにかからない学習個体
や山に住む個体の絶対数を
減らすためには銃猟による
一斉捕獲活動が大きな効果

を上げています。捕獲の一
つの方法が実施できないこ
とで町の一部では昨年まで
と違った状況の変化も現れ
ているようです。

例えば、保田や元名地区
でイノシシの目撃や掘り返
しなどの被害報告が増えて
います。鋸山の麓付近の一
斉駆除による捕獲が行われ
ないことで、活動範囲を広
げたイノシシ等が小規模な
畑や耕作放棄されたヤブに
出没しているようです。特
に非農家さんも含めた住宅
集中地でもあるため、今後、
人身被害などに危険が拡大
することが懸念されます。

管理のされていない空家
や耕作放棄地の地主さんに、
近隣への影響について理解
を促し（集落毎の連絡手段
を使ったり、役場より地主
さんへ連絡をするなど）、草
刈り等の管理作業を行う方
法を提示（ご自身でできな
ければ第三者に作業を依頼
するとか、草刈り作業の許

可や捕獲のための箱ワナの
設置許可を出すなど）する
ことが求められます。

住居集中地域では、鉄砲
による止めさしができな
かったり、くくりわなを設
置する支柱がないことや捕
獲時の危険が伴うなどの事
情により、一般的には箱ワ
ナによる捕獲&電気止めさ
し器などの使用が前提とな
ります。箱ワナによる捕獲
も、改めて技術を見直し、
住宅集中地で運用しやすい
方法論の確立が必要かもし
れません。

防護柵（ワイヤーメッシュ
柵や電気柵）を設置する際
の補助金の利用なども検討
可能です。詳しくは役場（地
域振興課農林水産振興室）
にご相談いただければと思
います。柵の資材の購入
代金等が一定の条件のもと
補助されます（対象は農地）。
課題である設置作業の労働
力については集落柵であれ
ば地域ぐるみの協働体制を

作ったり、今は叶いませ
んが、狩猟エコツアー「被害
対策ワークショップ」他の
イベントやボランティアを
活用してみるのも方法のひ
とつでしょう。また、地域
おこし協力隊や支援組織に
よる技術的なサポートは可
能なのでご相談いただけ
ばと思います。

昨年度（平成31年度）の 捕獲数の集計

（ ）内は前年（平成30年度）の捕獲数です。

イノシシ 855頭 (862頭)

1% 減

サル 122頭 (108頭)

13% 増

キョン 153頭 (122頭)

25% 増

シカ 764頭 (783頭)

2% 減

ハクビシン 37頭 (58頭)

36% 減

アライグマ 37頭 (43頭)

14% 減

平成31年度（令和元年度）は、前年度と比べて、捕獲数はほぼ横ばい。平成31年度は9〜10月の間、台風被害により捕獲がほとんどできませんでした。にも関わらず捕獲数が前年度と変わっていません。時期的な捕獲数推移を見ると、平成31年度は4〜8月の間の捕獲数が顕著な増加傾向にありました。生息数が頭打ちなのか、それとも増加傾向なのか。CSF（いわゆる豚コレラ）、増加傾向にあるキョン対策、住宅集中地域の人身被害なども含めて、引き続き気の抜けない状況です。

コロナ禍でも

「鋸南の魅力

伝えることが大切」

今、私が関心を持って
いるのは「東京の人たちの意
識の変化」です。

10年ほど前から、「これか
らは地方の時代」と言われ
てきています。しかし、一
部の人をのぞいて、東京の
人はそれほど興味を持って
こなかったのではないかと
思うのです。

先日、東京・大田区に住
んでいる人に、道の駅「保
田小学校」で購入した野菜
を送ると、「鋸南町って、お
いしいものがたくさんある
んですね。今度、行ってみ
ます！」と言われました。
在宅勤務で、近所のスーパー
にしか買えない物に行けない状
態の中、「おいしい野菜」が
届くとそれだけでうれしい
と感じるようなのです。



在宅勤務ができる人の場
合、コロナが収束したあ
と、地方に住んでみたいと
考えている人は結構、いる
のではないのでしょうか。特
に、鋸南町は東京から近く、
リモートワーク（遠隔地で
仕事をする）には最適
な場所であると感じます。
コロナ禍でも、町の魅力を
東京の人に伝えていくこと。
今は、それが大切であると
感じています。

清水多佳子

鋸南で根を下ろし 暮らすということ

緊急事態宣言が発令されてから、一度も東京に行っていません。
実家の両親とは、2日に1回は実家に電話をすることで両親の安
否確認を行っております。

前回のDappeでも書いたことですが、私、新型コロナの感染が
拡大する前は、2週間に1回くらい東京にある実家に戻っていま
した。それは単に、高齢の両親が心配だからという理由ではあり
ませんでした。

病院、薬局そして美容院など、自分が何年も通って慣れていた
ところに行くため、というのも東京に帰る目的でもありました。

この2か月ほど、当然のことながら、病院や美容院も地元のと
ころに行くことになりました。なんとなく思うのですが、生活を
ほぼ鋸南町の中もしくは町の近隣で済ませてしまうことで、町の
ことを深く知ることができるようになったと感じています。

また、休みの日に、町内の友人と家飲みをすることで、人間関
係を深めることができるようになったと感じています。

地方に移住して生活をするということー。それは、単に東京
から住所を移し、自然を楽しむことではありません。自粛ムード
の中で、そういったことを考えさせられています。

